

第72回 日本PTA全国研究大会 川崎大会 参加報告書

富士市PTA連絡協議会 副会長 小池 雅記

第72回 日本PTA全国研究大会川崎大会並びに関東ブロック研究大会に参加いたしましたので、ご報告致します。

【概要】

スローガン：ウェルビーイングの実現を、川崎の地から ～活かそう「緑」の力～

テーマ：社会の大きな変化を学び、進化を考える PTA 活動

自己肯定感を高めあい、活力ある PTA 活動

誰も取り残さない、居場所を大切にす PTA 活動

1日目内容：(特別第1) 全国のPTAの縁をいかし力強く進める教育環境改善への提言

～ PTAの真の役割とは。ウェルビーイングな社会教育の促進～

(全体基調講演) 誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて

～全ての子供たちに「生まれてくれてありがとう」を届けよう！～

(特別第2) 大人が変われば子供も変わる！ウェルビーイングの社会実装

～学び保障の政策を社会に根付かせることの大切さ～

(セッション1) 多様性を認め合う心豊かな社会を目指して

～違いに気づきワクワクする人間関係が活動の力に！～

2日目内容：(セッション2) 子供たちと一緒に自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ

～子供たちへの報酬は「ほめること」。もっと親力を発揮しよう！～

(セッション3) 地域や社会に広げるウェルビーイング！住み続けたいまちへ

～全国大会ならでは！各ブロック大会等の活動事例から共に学ぼう～

(記念講演) ウェルビーイングを社会に広げることの大切さ

～学びを振り返り、今こそ一歩踏み出す決意の瞬間を楽しもう！～

【所感】

私自身今回が全国大会に初めて参加しましたが、市P連の執行部としては経験が浅く全国研究大会がどのような感じで行われていくかイメージが湧かなかったため、市P連の一員として、役割を果たすことができるか正直不安なところがありました。

実際大会は、基本的には講演等を聞くパートと参加者同士でグループ分けして意見交換をするパートで構成され、講演内容に基づきグループ内で意見交換をするという形で進行していきました。

・太田敬介氏（日本PTA全国協議会会長）からは、PTA誕生の背景から今後のPTAの役割に関する講演をいただき、PTA活動は子供だけでなく大人も幸せになれる活動（個人の幸福な人生）をするべきである事を感じました。

・内田由紀子氏（京都大学 人と社会の未来研究院院長）からは、教育におけるウェルビーイングの向上、信頼関係の重要性、個人を尊重し日本的な協調性を活かす、開かれた学校経営等について講演いた

だき、学校・PTA・地域が一体となり、人間関係・自己肯定感を構築し、主観的幸福感を与える環境づくりが重要だと感じました。

・西野博之氏（認定NPO法人フリースペースたまりば理事長）からは、川崎市こどもの権利条例に記されている「こどもの居場所」に関する事例（川崎市子ども夢パーク）での活動やコンセプトについての説明、不登校児童（約30万人）、いじめ（小学校2年生が一番多い）、子どもの自死（昨年度513名）についての紹介、またその理由の一つとして「自己肯定感が低い」ため、そうならないようにするための対策として、「正しさ・完璧」を求めすぎる家庭環境（弱音を吐けない状況）を打破し、子供の幸福度を上げることが重要であるとの事で、その方法として、遊びを通じて「非認知能力」（数値化できない力）を養うために、自分の責任で自由に遊ぶ事が重要だと感じました。

・土屋美樹氏（文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導第一係長）からは、文部科学省としての取組事例や制度の紹介がありました。

・吉田田タカシ氏（トーキョーコーヒー代表）からは、「人生の消費者ではなく“つくり手”になる事」（学ぶとは正解を暗記する事ではなく、答えを探求し自分たちでつくる事）が大切で、「子供を均質化する教育に未来はない」（マイノリティはネガティブではない）という講演があり、子供たちに対し、偏見の目を持った接し方をせず、あくまで見守ることが重要だと感じました。

・セッション1～3では、色々注意すると自己否定感が強くなる（モチベーションが下がる）ため、自己肯定感を高める活動事例の紹介「ほめ写」（頑張っている場面や家族写真等を印刷し掲示する）がありました。

またPTA活動事例として下記3点が紹介されました。

- ① 「PTA'S キッチン」（川崎市）子供たちがメニューを考え、近隣の飲食店で販売する。
- ② 「親子ものづくり体験」（静岡県）親子で模型作り体験をする。
- ③ 「PTA フォーラム」（岐阜県）県P大会の時にマルシェを同時開催する。

・前野マドカ氏（EVOL株式会社 代表取締役 CEO）からは、ウェルビーイングを実現するために、何をすべきかという点をふまえ、体の栄養（食事）・心の栄養（声掛け等）を与えながら、幸せなPTA活動を実践していくキーワード等の紹介がありました。

【まとめ】

スローガンの中に「ウェルビーイングの実現」というフレーズがあり、正直最初は言葉の意味・定義をあまりよく理解できず、戸惑いもありましたが、講演・意見交換をしていくうちに、自分なりのウェルビーイング（何をもちて生きがいや幸せを感じるか、また実現にむけてどのような行動をしていき、どう精神状態良い状態に保っていくか）というものが、少しは見えてきた感じがしました。

また今回講演の中で話題となった「ほめ写」については、偶然実家で取組をしており、写真を見てただ昔を懐かしむだけではなく、またがんばろうという意欲も自然と湧いてきていたので、こちらについては、是非皆さんにもおすすめしたいと思いました。

グループに分かれて意見交換した際、私のグループの中に新潟県佐渡市から参加した方がいまして、色々活動したいのは山々だが、会員対象世帯が8件しかなく、予算・人手がないため中々思うように活動ができないとの意見がありました。

自分の地区でも年々子供の数が減少しており、状況にあった活動内容やさらなる地域との連携を模索

する必要を感じました。

そして、PTA活動は無理強いしてやるものではなく、大人が楽しめないと子供も楽しめないと思うので、自分の理想像を押し付けず、些細なことでも感謝を忘れず、最終的に携わった皆さんに幸福感と満足感を得られるよう、今後の活動に活かしていきたいと思います。